



参加者が心待ちにしていた稲刈り体験
(本文中に関連記事があります)

目次 / contents

特集「Twitter から始まった若手所員研修報告 2011」……

九州の元気なまちの力を吸収してきました / 若手所員 ②

きんぎょう ……

「長岡京 市民まちづくりセッション～20年後の環境未来へ～」
が開催されました! / 石井努・廣部出 ⑥

「レトロ三津浜ぱくぱくはいく」に参加しました / 高田剛司 ⑥

「まちづくりの実験工場」としての南区区民まちづくり会議の
活動を紹介します! / 岡崎まり ⑧

メディア・ウォッチ ……

コミュニティ再生のための地域自治のしくみと実践
/ 田口智弘 ⑨

まちかど ……

身近なまちなかの楽しみ方 / 羽田拓也 ⑩

九州の元気なまちの力を吸収してきました

Twitterから始まった

若手所員研修報告 2011

平成23年6月に、アルパック各事務所（京都・大阪・名古屋）に在籍する若手所員9名（環境、産業、景観、都市・住宅計画、交通等←多分野！）で研修旅行を企画・開催しました。その内容についてご報告します。

○視察研修のキッカケ

平成23年3月上旬、京都事務所所属の江藤と榎よかネットの原氏の間でTwitterを通して、佐賀県佐賀市富士町の「情報化ビレッジ形成プロジェクト」（p.4参照）に係るつづきやき合いがあり、そこからすべてが始まりました。

ポータルサイトの構築・運営から特産品開発・観光商品開発まで取り組む富士町の事例に興味を惹かれ、若手所員に研修視察の企画立案を呼びかけたことをきっかけに、富士町を中心に九州における様々な先進事例を視察する研修を実施することとなりました。

○視察概要

今回訪れたのは、地域特性・地域課題は様々ですが、「時代の風を読みながら、持続的に、地域の課題に向き合い、魅力創出に取り組んでいる」地域です。若手所員としての視点で、視察を通して学んだこと感じたことを、今後、近畿、中部などのまちづくりに生かしていきたいと考えています。

具体的な視察先は、九州最大の都心でエリアマネジメントを展開している福岡市天神地区、環境先進

都市として数々のモデル事業を展開している北九州市、地域の魅力を引き出しながら持続的に事業を展開している佐賀市富士町、人口減少・高齢化の進む地域において新たな仕掛けにより相互扶助の維持に取り組んでいる八女市上陽町、掘割の残る水郷景観が暮らしの中で維持されている柳川市です。

富士町と天神地区の事例については次ページ以降に詳細に、紙面の都合上ご紹介しきれない視察の報告として上陽町、柳川市、北九州市の事例はコラム的に各担当がまとめました。

また、視察で出会ったうまいもの等も「旅のいろいろ」と題して、視察の行程に沿って、各ページの下部にてご紹介しております。

○謝辞

今回の視察研修では（株）インビルの永田氏、NPO法人グラウンドワーク福岡（GW福岡）の大谷氏、柳川市役所の皆さん、北九州エコタウンセンターの皆さん、（株）よかネットの皆さんに、大変お世話になりました。厚く御礼申し上げます。

天神地区/福岡市



- ① 15km²
- ② 11,022人/km²
- ③ 167,100人
- ④ 91,929
- ⑤ 13.7%
- ⑥ 16,140千人 ※1

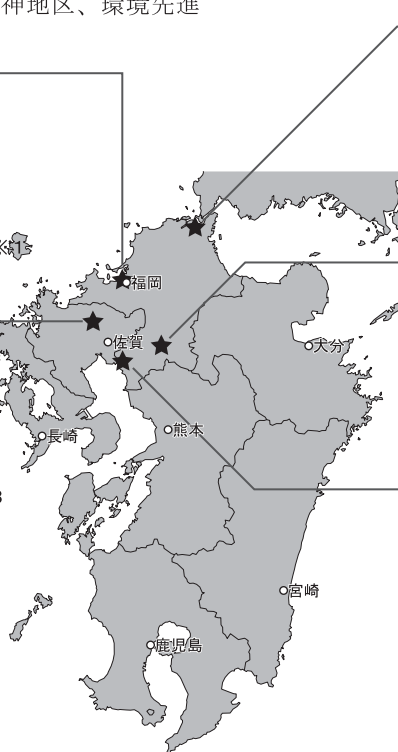
富士町/佐賀市



- ① 143km²
- ② 33人/km²
- ③ 4,774人
- ④ 1,347
- ⑤ 34.6%
- ⑥ 288千人 ※3

- | | |
|-----------------------------|-------------|
| ① 面積 (km ²) | ④ 世帯数 |
| ② 人口密度 (人/km ²) | ⑤ 高齢化率 (%) |
| ③ 人口 (人) | ⑥ 入込客数 (千人) |

※1 ①～⑥は福岡市の値
 ※2 ⑥は八女市の値
 ※3 ⑥は古湯・熊の川温泉郷の値



北九州エコタウン/北九州市



- ① 488km²
- ② 2,036人/km²
- ③ 993,525人
- ④ 412,247
- ⑤ 22.2%
- ⑥ 16,923千人

上陽町/八女市



- ① 59km²
- ② 65人/km²
- ③ 3,867人
- ④ 1,144
- ⑤ 31.2%
- ⑥ 820千人 ※2

柳川/柳川市



- ① 77km²
- ② 970人/km²
- ③ 74,539人
- ④ 23,037
- ⑤ 24.1%
- ⑥ 1,156千人

天神地区

福岡市天神地区でエリアマネジメントに取り組む、注目の「We Love 天神協議会」。その活発な取り組みの秘訣について考える。



We Love 天神協議会

1 天神地区のエリアマネジメント

天神地区は福岡市の商業・業務機能の中心的な集積地であり、戦後一貫して成長を続け、福岡都市圏の発展を牽引してきた。鉄道やバス路線が集中し福岡都市圏においてきわめて高い拠点性を有しており、陸・海・空の広域の交通機関も近接していることから商圈は九州全体と言われ、またアジアからの集客も展望している。

この都市の拠点となる地区において、過密による弊害とも言える交通渋滞や違法駐輪などの問題に対応するため、平成18年に地区の地権者や民間事業者を中心として「We Love 天神協議会」が発足された。

2 取り組みを推進する事業者の存在

この協議会の取り組みが着実に押し進められているのは、推進役となる主体がいるためである。

例えば西日本鉄道株式会社は、天神を拠点とする鉄道事業、バス交通事業の事業者であると同時に、一帯の不動産事業も手がけている。そのため、来街者数の動向には敏感で、人を吸い寄せ続けるまちの魅力の維持向上は大きな関心事になっていると考えられる。平成12年に入ってから同地区で行われるイベントなどのプロジェクトに参加し、現在では自主的な取り組みの推進役を担うに至っている。

3 具体的な取り組みを担う部会

協議会では、平成19年に「天神

まちづくりカイドライン」を策定し、その目標実現に向けて具体的な取り組みを着実に積み重ねてきた。その推進のポイントとして、取り組みのテーマごとに構成されている複数のワーキング（部会、以下WG）が挙げられる。例えば、オープンカフェの実施等を通して空間の活用に取り組むWGや、交通体系のあり方や車との関係を考えるWG等がある。

興味関心のある人が集まって実践部隊としてのWGを組織しているため、フットワーク軽く着実に活動が積み重ねられていくようだ。

4 行政に求められる役割

協議会のメンバーである民間事業者がネットワークし、少しずつ力を出し合うことで、ハードな整備を含めたまちづくりも行われている。例えば、街路をイルミネーションで彩るときには、街路に面する各店舗が間口の分だけ費用を負担することで実現している。事業者にとってみれば、来街者の増加、長期的に見ればビルの空室率の低下として将来的に還元される投資である。

このような地区に対する行政に期待される役割の一つは、制度面での支援である。例えば、同地区内に存在する「天神明治通り街づくり協議会」では、地区計画の策定をめざしている。ビルのオーナーが、一定のルールに沿ったまちづくりに参加すれば、容積率緩和が受けられるという仕組みづくり

である。

天神地区では民間事業者による主体的な地区のマネジメントが先進的であるので、今後は行政ともそれぞれの得意分野で力を出し合っていく行われるコラボレーションがより一層期待される。

5 何事も小さく楽しい活動の積み重ね

取り組みを推進する事業者の存在や部会の体制、行政との役割分担からの示唆を受けたが、地域や来街者の応援を得ながら協議会の取り組みが推進力を維持しつづけている理由としては、やはり小さく楽しい取り組みの積み重ねにあるだろう。

年に一度開催される「天神 PICNIC」のような代表的なイベントの他に、街路の清掃活動や夜間のパトロール、様々なキャンペーンのデモ行進など、小規模多発的な活動がまちなかで展開されている。

これにより参加者の間につながりが再生産され、参加意欲の維持向上につながっていると考えられる。さらに、まちなかでの楽しそうな活動が来街者を刺激し、取り組みのファンを拡大し潜在的な参加者の裾野を広げているのではないだろうか。

今や目が離せない天神地区におけるエリアマネジメントの今後の展開に期待すると共に、近畿、中部のまちでも、小さく楽しい取り組みを仕掛けていきたい。

(大阪事務所/依藤)

旅 13:00 研修スタート

(株)よかネット事務所でのレクチャーを終え、まちへ...



15:00 まちで出会う

まちあるきのガイドさんに遭遇



天神地区一帯で利用可能なベビーカーの無料貸出



博多のB級グルメ代表格



コバラノミカタ ムツゴロウマンジュウ!

19:00 夜のまちへ繰り出す

まちづくりのみらいについて、あつく(?)語り、呑む



♫は長浜ラーメン

旅のいろいろ 1 日目



国の緊急雇用事業終了後も事業継続するため株式会社を設立し、地域資源を活用した事業化に取り組む。人口減少時代の中山間地域における事業化モデル創出に挑戦する富士町。



富士町

1 都会に近い中山間地域におけるICTを活用した地域活性化事業

佐賀市富士町は、面積の8割を森林が占める中山間地域である。福岡市から車で1時間に位置し、高齢化が進み、人口も減少傾向にある。主要産業は建設業、農業、観光業であり、町内には良質な泉質を持つ古湯・熊の川温泉が湧き、観光客は全国的に減少する中で、横ばいを保っている。

このような過疎地域において、町民の所得向上や交流人口の増加を目標とした「情報化ビレッジ形成プロジェクト」（ICTを活用した地域活性化事業）に取り組むのが、任意団体「ふじねっと」（チームリーダー、永田靖智氏）である。㈱よかネット（担当、原啓介氏）が、同プロジェクトの運営管理を受託している。

「ふじねっと」とは、「地域情報化を通じた、富士町における暮らしの豊かさ向上」の実現に向け、様々な事業の主体となる組織である。緊急雇用事業を活用して職員を平成21年10月～平成24年3月末までの期間限定で雇用し、地域ポータルサイトの運営や特産品開発（ふじから便）、観光商品開発のほか、町内でパソコンやソーシャルメディアの使い方講座に取り組んできた。

2 「富士町ファン」づくり戦略～ソーシャルメディアが地域を変える！？

富士町の取り組みは、特産品開発と観光商品開発を通じた「富士

町ファン」づくりである。ターゲットは福岡、佐賀の健康志向・安心志向や農業・農村への高い関心を寄せる40～60代の女性である。期間限定で富士町の特産品が天神地区の大手百貨店で販売され、また体験観光の企画には富士町ファンが集まり始めている。

こうした取り組みを支えるツールの1つに、TwitterやFacebookなど「ソーシャルメディア」の活用がある。従来なら知り合うことのない方とも、これらを通してコミュニケーションが生まれ、特産品開発へのアドバイスや、新たなファンの開拓につながっている。

3 「ふじねっと」から「インビル」へ～地域に根ざした雇用の創出

緊急雇用事業を活用した取り組みから出発した富士町では、当初から新事業の立ち上げを目標として掲げ、事業終了後の展開を見据えていた。まず、70名以上の応募者から、SE、経理、農業、デザインなど当事業で求められる能力を持つ新規雇用者4名を戦略的に採用し、採用後は毎週の打ち合わせや実践を通して成長を促した。特に永田氏は過去に社内ベンチャー等に取り組まれた経験を持ち、当事業に適したリーダーシップを有していた。

事業開始後は、最初の3か月間を町民への事業説明に費やし、頻繁に地域に足を運ぶことで地域との信頼関係を築き、今では温かい声

や地域内の連携が生まれている。

そして、事業終了を待たずして平成23年6月、チームリーダーの永田氏が社長として就任し、新法人㈱インビルを立ち上げた。このことにより、継続的な地域活性化の土台が出来上がった。今後は、持続可能な組織の確立、すなわち、事業収益による雇用の持続・拡大への取り組みを注視していきたい。

4 コンサルタントと地域

お話を伺う限り、原氏と永田氏による二人三脚で、幾多の困難を乗り越えてこられたのだと感じた。地域資源が豊富なだけでなく、ともに地域づくりに取り組む仲間と出逢うきっかけをくれた富士町に巡り逢えたことは、コンサルタントとして本当に幸せなことだと思う。

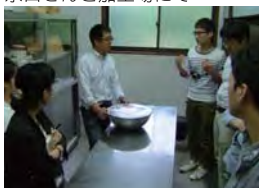
富士町の取り組みから中山間地域の活性化を考えると、活性化に向けた計画づくりの支援から、商品開発や販路開拓など事業化の支援に至るまでの一連の関わり合いの中で、時に自らも事業主体となることを想定し、地域の「内」（地域住民、地域資源）と、「外」（都市住民、取り組みの支援者）との関係性を構築することが重要であると感じている。

地域だけでなく自らにとっても好循環を生み出す仕組み、仕掛けを考え、提案していきたいと思う。

（京都事務所/山崎、江藤、浅田）

旅のいるいる2日目 8:00 スタート

ふじねっと推進チームリーダー永田さんと加工場にて



ふじねっと米栽培地都市住民との交流の場に



12:30 昼食&地域の温泉へ

地元のお母さんたちが営む「森の香 菖蒲こ膳」にて昼食



せっかくなので地域の温泉につかる



16:00 上陽町へ

NPO法人グラウンドワーク福岡(GW福岡)の理事・事務局長の大谷氏に出会う



元気なまちの力の数々！

中山間地域からのヒント / 上陽町



NPO法人グラウンドワーク福岡（GW福岡）は、平成5年福岡県庁内での自主活動グループがきっかけとなり誕生した団体である。現在、指定管理者として上陽町にある3施設の管理・運営を行いながら、^{じょうやう}上陽町の高齢化や過疎化への対策として、お互いの「時間」をやりとりする「タイムバンキング」の取り組みを実施している。これにより高齢者の孤食対策や若者に地域へ興味を持ってもらうきっかけづくりを行い、皆が地域社会の中で豊かに暮らすことが出来るよう相互扶助の維持を試みている。この他にも、資金獲得および若者の雇用創出の一環として、加工製品製造会社の設立等、精力的に活動を行っている。高齢化社会の課題は、中山間地域に限らずオールドニュータウンでも大きな課題である。中山間地域での先進的な取り組みの中に、オールドニュータウン再生のヒントがあるかもしれない。

（名古屋・大阪事務所/中川, 岡崎）

水郷景観とそれを守る住民の取り組み / 柳川市



市内と周辺部には、まちの防御、利水、治水等を考慮して計画的に水路が張り巡らされている。生活用水として直接利用されることはないが、今なお、防火や農業用水として掘割が暮らしや生業と密接に関連している。ご存知の通り、柳川は住民による掘割の水質改善活動が盛んに行われており、関係団体により「水落ち」（掘割の水を抜いて清掃などを行う取り組み）が現在も行われている。一方、掘割は農業用水として水質が維持されてきた側面もあり、近年の農業衰退により周辺部では水質改善の取り組みがあまり行われなくなった現状もあるという。時代が変化していく中で、暮らしや生業から生みだされ、維持されてきた景観をすべて守る必要はないのかもしれない。ただ、景観という地域固有の資源を通じて、地域に関わり、大切にしたいと思う人が一人でも増えれば地域にとって本当に価値のあるものが残っていくような気がした。

（大阪事務所/橋本）

市民に親しまれる環境への取り組み / 北九州市



臨風人海部の並ぶばらなもいっつかは

官営八幡製鐵所をはじめとする「ものづくり」の街として発展してきた北九州市は、公害問題解決をきっかけにして環境問題に積極的に取り組み、現在では環境モデル都市や次世代エネルギー・社会システム実証地域に認定されるなど環境に取り組む都市の代表格である。また、先進的な取り組みとあわせて、北九州エコタウンセンターというアンテナ施設を、ものづくり関連企業とともに整備し、市民の環境学習の場を提供するなど、市民への周知・啓発にも取り組んでいる。

これらの取り組みを通じて、一見、無機質とも言える響灘まで続く工場群や、その先にある風車が立ち並ぶ緑地が、海辺の風景と相まって、恋人達が語らうデートスポットになるなど、環境に関する取り組み以外にも市民との距離感が縮まり、親しみを持つ人たちが増えていくとうれしい。

（大阪事務所/羽田, 武藤）

旅 7:30 上陽町を出発

の上陽町での宿泊先は、GW福岡が改修した旧川口邸



9:30 柳川へ

視察後は、うなぎのせいろむしを堪能！福柳にて



14:30 北九州へ ~終電まで

リサイクル工場やエコタウン事業の見学後、松岡氏((社)資源循環ネットワーク・アルバックO B)と終電まで交流。



旅のいろいろ 3日目



「長岡京 市民まちづくりセッション～20年後の環境未来へ～」が開催されました！

京都事務所／石井努・廣部出

草津市の「座・でいすかす」、三田市の「さんだの夢・未来を描くワークショップ」に引き続き、弊社がお手伝いした「市民討議会」方式の取り組み、第3弾です。「市民討議会」は、参加者無作為抽出・有報酬による計画細胞の手法をアレンジしたのですが、関西ではほとんど取り組まれていません。今回は、総合計画策定に絡んだ2例に続いて、環境基本計画という領域別計画に絡めた実施と相成りました。

事前準備のポイント！

長岡京市では、職員さんによるワーキング・チームが準備を担われています。「長岡京市の新しい市民参画手法の開発・確立」と「環境基本計画策定プロセスとしての市民参画」のふたつの動きが一体となって進められました。当初より、後者を試金石として、手法のブラッシュアップと標準化を企図されたわけです。そのため「市民まちづくりセッション」という標準名称とサブタイトルをセットし、企画スタートです。



プログラムのポイント！

ご参加の市民の皆さんには、和やかな時間から意見交換、提案へと向かってほしい。そういった職員さんの思いから、最初にワールド・カフェ方式*の時間を組み入れています。プログラムの進行は些かタイトになりましたが、雰囲気アップ効果は上々。和気あいあいとした立ち上がりで、引き続いてセッション1と題した情報提供と意見交換の時間には、既にテーブルの自治(職員さん曰く)が成立しているグループも。さしずめ私どもは無用の用を果たしていたんだ、とでも言い張っておきます(ホントに地味なコワザが効いてるんです!!)。

1日半にわたる長丁場のセッション1、2を通して、皆さんには「緑をまもる」「緑をつくる」「地球温暖化に対策する」の3つのテーマで学び、語り合って頂き、20年後の環境未来へ向け取り組むべきことについて、“市民目線”からの多彩なご提案を頂きました。

ともにまちに関わる仲間へ

セッションは、一期一会のココロ。取り組みの名称は市長さん



の座右の銘にも因んでいたのですが、ご参加の皆さんの間にも、その思いは伝わったようです。もちろん、市としても初めての取り組みで改善の余地はいっぱいあるのですが、それでもご参加の皆さんからは、思った以上によかった、またの機会を、などの元気につながる感想を多く残して頂いたところです。

まちづくりに参画するには、一歩を踏み出すためのきっかけが必要な人がたくさんいます。そうした市民層への新しいアプローチ、いかがですか? ご用命あらば、紙面に書けないノウハウを携えて参ります。お声かけください。

※ワールド・カフェは、カフェでの雑談の雰囲気を生かして知識や考えを共有し、相互理解を深める機能を重視したコミュニケーション手法です。

「レトロ三津浜ばくばくはいく」に参加しました

大阪事務所／高田剛司

まち歩きツアー「松山はいく」

近年、地元の人の企画と案内による、まち歩きツアーが全国各地で取り組まれるようになってきました。その先駆けである大ヒット企画は「長崎さるく」で、長崎弁の「さるく(ぶらぶら歩く)」という言葉は、まち歩きツアーの代名詞として、いまや九州一円で使われるようになってきました。

また、大阪では、何十ものコースが作られ、「大阪あそ歩(ぼ)」として「着地型観光」が展開されています。まち歩き一つとっても、いろいろとネーミングを考えるものです。

ところで、今回ご紹介するのは愛媛県松山市。NHK スペシャルドラマ「坂の上の雲」で、正岡子規





松山はいく参加者への配布物や秋山兄弟の出身地として、あらためて脚光を浴びているまちです。

ここでも、昨年度からまち歩きツアーが始まりました。子規や高浜虚子など多くの俳人を輩出し、現在では、高校生の「俳句甲子園」を開催するなど、俳句のメッカともいわれるこの地のまち歩きは、「松山はいく」と言います。「ハイク」と「俳句」をかけたネーミングはお見事。

先日、この「松山はいく」のコースの一つ、「レトロ三津浜ぱくぱくはいく」に参加しましたので、その内容をご紹介します。その内容を紹介します。港町であり、昔懐かしい町並みが残る「三津浜地区」

松山に来る観光客は年間500万人で、そのほとんどは道後温泉と松山城を目的に訪れます。しかし、松山の観光資源はそれだけでなく、瀬戸内海に面し、島嶼部もあるという一面があります。

松山市中心部から伊予鉄郊外電車高浜線で15分程の距離にある「三津浜地区」は、古くから松山の海の玄関口としてにぎわい、歴史ある地区です。市内中心部は戦災によって多くの民家が焼失してしまいましたが、三津浜地区は、戦災から免れたため、江戸・



レトロなまちなみ



100%みかん生ジュース

明治・大正の建物も多く残っている市内でも珍しい地域になります。さらに、「三津の朝市」と呼ばれた魚市場の流れを継ぐ、松山市公設水産地方卸売市場があり、食の要素も魅力的です。

お腹も、コミュニケーションも、知識も大満足のツアー

伊予鉄三津駅を起点に、まちなかのお店をまわり、「三津の渡し（正式名称:松山市道高浜2号線）」を渡って伊予鉄港山駅まで歩く、約2時間のまち歩きコースが「ぱくぱくはいく」となります。

「ぱくぱく」する最初は、駅構内に店を構える地元「風月堂」の「みそ松風」という蒸しパンです。甘すぎず懐かしい味になっています。次に「練や正雪」の竹輪。地元で新鮮な魚を使った出来たて竹輪は絶品です。ちなみに、じゃこ天やじゃこカツも揚げたてが食べられてオススメです。

「カフェ田中戸」では、瀬戸内海に浮かぶ中島のみかんを絞った100%生ジュースをいただきます。店内も落ち着いていてゆったりくつろげます。その後、創業150年の「遠藤味噌醤油」を訪れ、江戸時代の蔵を見学して、醤油の土産をいただきました。



「鯛や」入り口



鯛メシ膳

きんきょう

最後に、建物自体が登録有形文化財であり、2階には多くのお宝が公開されている「鯛や」さんで、瀬戸内の天然鯛を使った鯛メシをいただきます（これはオプション）。いずれも、お店の人との会話が楽しめ、最後の鯛やさんは、食事の後に、ご主人自らがお先祖のお宝を説明してくれます。全行程では、まち歩きガイドさんのお話があり、見過ごしてしまいがちなところや、三津浜の歴史・文化の豊かさを垣間見ることができました。

ぜひ、松山・三津浜地区に出掛けて、実体験を！

紙面では書ききれないツアーの魅力、三津浜地区の魅力はまだあります。「松山はいく」では、参加者に、一筆箋や初心者のための俳句入門付きガイドブックも配られます。「ここで一句」という、旅ならではの心のゆとりを感じさせてくれるツアー内容でした。松山に観光で行かれる際は、松山はいくを通じて、ぜひ、三津浜地区を楽しんでみてください。

松山はいくホームページ

<http://www.sakanouenokumonomachi.jp/haiku/>

注；各店の定休日が異なるため、ここに紹介したお店に入れない場合もあります。



「まちづくりの実験工場」としての南区区民まちづくり会議の活動を紹介します！

大阪事務所／岡崎まり

南区区民まちづくり会議

大阪府堺市では、区域の特色を活かした魅力あるまちづくりを推進するため、区ごとに区民まちづくり会議を開催しています。

南区では「地域の課題は、地域で考え、解決につなげていく」を目標に、区民と区が力を合わせて南区を良くしていこうと平成21年度から「第2期南区区民まちづくり会議」がスタートしました。南区区民まちづくり会議では、南区に新しい風を送り込み、よりよいまちづくりを進めるための「実験工場」になろうと、全区域あるいは校区をまたがって行うべき活動を提案・実施しています。活動は、「交流」「魅力」「安心」の3部会に分かれて行っており、今回はその中のひとつである「交流」班の活動を報告します。

第2回「田んぼにGO 畑にGO」の開催

6月19日（日）、鉢ヶ峯寺地域の水田で、「ニュータウンの子ども達が南区の財産である豊かな農業振興地域を訪れ、地域の方との交流を生み出す」を目的に、



田植えの様子

農業体験イベント「田んぼにGO 畑にGO」を開催しました。

当日は雨の中、約70組の親子がおよそ1時間で2000平方メートルの田んぼに苗を植えました。このイベントは昨年度から実施しており、約半数の参加者がリピーターです。昨年度に引き続き、当日は生憎の雨でしたが、小さな子ども達が色とりどりの合羽を来て、一生懸命苗を植えていきました。

10月の稲刈りまでには、1週間ごとの稲の生長が南区のホームページにアップされ、参加者は自分達の手で植えた稲の生長をチェックしてくれていました。数十組の親子は実際に田んぼにまで足を運び見に行ってくれたようです。

そして10月23日（日）、さわやかな秋晴れのもと、稲刈りの日を迎えました。参加者の多くが稲刈りを心待ちにしていたということで、使い慣れないカマに悪戦苦闘しながらも、自分達が植えた稲を一株ずつ丁寧に刈り取っていました。また、当日は稲刈りの他、芋掘りと枝豆取りも体験してもらい、土に触れながら地域に残る自然を満喫していただきました。



悪戦苦闘しながらの稲刈り



第3期南区区民まちづくり会議に向けて

第2期南区区民まちづくり会議は平成23年度で任期が終了し、平成24年度からは新たに第3期南区区民まちづくり会議がスタートします。今後は第3期への引継ぎに向けて、これまでの3年間に行ってきたことを振り返り、活動の方向性や継続して欲しいこと、これから強化していきべきことを議論していきます。約2年前から地域でモデル事業を開始し、やっと少しずつ区民の方に区民まちづくり会議の活動を知ってもらい出したところです。この流れを止めることなく、更に活発な活動を地域の中で展開していくために、第2期での活動をしっかりと見直しながら次につなげるためのノウハウの蓄積を行っていききたいと思います。



MEDIA WATCH

「コミュニティ再生のための 地域自治のしくみと実践」

編著者：中川幾郎
発行：学芸出版社



紹介者／大阪事務所 田口 智弘

本書の「はじめに」で、編著者である中川先生は、地域コミュニティの都市部における文化的な内部崩壊、郡部における人口減少による物理的崩壊の兆しをあげています。中川先生にはのっけから失礼ですが「事態は更に深刻」と感じました。郡部においても都市部と同様、文化やシステムに起因する内部崩壊が起きていると、農山村に育ち、帰省や仕事で都市と農山村を行き来する私は感じているのです。

本書は、「地域自治システムを形成する動きについて、広く一般にもわかりやすくまとめて紹介することを目的とする初めての書籍である」と、「はじめに」で紹介されているとおり、「コミュニティ政策と地方自治の概観」、「地域自治の実践事例」、「今後の課題と展望」の3部から構成される、実証的で読みやすい書籍となっています。

I. 地域作りのこれまで、これから

第1部は「地域自治の概観」ともいえるページで、コミュニティについて“おさらい”したい読者には、ありがたい教科書となっています。今後、コミュニティ政策に携わる実務者や研究者だけでなく、実際に地域自治を担う方たちの傍らで活躍するはずで、これからの地域自治を担う世代、それは団塊の世代が中心になるだろうと言われています。彼らの多くは郡部、都市部のかつての密度の高いコミュニティ—郡部では「となりのトトロ」、都市部では「三丁目の夕日」の背景に見え隠れするコミュニティのイメージ?—を体験しており、彼らが地域自治に携わるとき、本書が良き道しるべとなります。一つの心配事は、特定の世代が地域自治を仕切ること、なので若い世代にはテーマ型のコミュニティで地域自治に参画していただきましょう。

II. 地域自治の実践に学ぶ

本書の大きな特徴である事例編では、各地での実践経験と深い観察力・分析力を持った諸氏の執筆からなっており、現在、地域自治の現場で活躍中の研究者や実務者にとって、のどから手が出るほど欲しい情報がてんこ盛りになっています。私も重宝しています(笑)。阪神・淡路大震災とコミュニティの関わりから始まり、宝塚市、朝来市、伊賀市、名張市、京都市、豊中市等の紹介は、成功例ばかりでなく、問題点や課題を浮き彫りにした報告の集大成になっており、肯くことしきりです。また、事例の選定は、大都市、大都市近郊都市、地方都市、中山間自治体と典型的な都市のタイプをカバーしており、地域や制度の差異による地域自治の姿のありようは多くの実務者の気づきを促すはずで

III. 今後の課題と展望

私は総合計画の策定支援に携わることが多いのですが、近年の傾向として、分野別計画と地域別計画の両頭立ての構成を目にするようになりました。総合計画が自治体で策定され始めた頃、地域別計画は均等な地域の発展を目指すインフラ整備のための計画として位置づけられていました。しかし、インフラが整備から管理の段階に移行しつつある今日、総合計画から地域別計画は姿を消していたのです。近年の地域別計画の中身は、地域の課題を解決するための地域の計画、つまり地域がめざす将来像と実現の方策が示されています。

本書の締めくくりとして、地域自治を推進するための10箇条が記してあり、その2番目に、地域自治を総合計画に位置づけるとあります。総合計画が行政計画から住民協働の計画になる、地方自治が大きな転機期を迎えていることを実感します。



身近なまちなかの楽しみ方

大阪事務所／羽田 拓也

舟でまちを行き来する～大阪水辺バル～

函館発祥で、今や関西だけで20地区ほどで開催されるまでに広がった「まちなかバル」。「水都大阪フェス2011」でも「大阪水辺バル」として10月22日に開催されました。

普通のバルとは違い、天満橋や福島、大正など5つの船着場周辺に広がる「バル街」の合計90店の飲食店を舟で「はしご」するもので、普段から大阪の川を運航する大小9隻の舟にもバルチケットを使って乗船できる仕組みです。当日は、舟のプロによる緻密な運航表をもとに、中之島や東横堀川、尻無川といった、普段の大阪の景色を川の上から眺め、舟の上で同席になった方との会話や道行く人との手の振り合いなどいつものひと味違った景色やコミュニケーションを楽しむバルイベントを多くの方が体感されました。これを機に、舟に乗るといふ水都ならではのまちなかの楽しみ方が広がってほしいと思います。

早朝の格別な時間を味わう～ご来光カフェ～

10月1日午前5時50分。それは、大阪水上バス淀屋橋港の棧橋を使った期間限定のカフェがオープンする時間です。

NPO法人「もうひとつの旅クラブ」の活動である「ご来光カフェ」は、10月初めの1週間だ

け土佐堀川の向こうに望む生駒の山並みから昇る「ご来光」という自然の営みを体感し、早朝のひとつを川の流れとあいまった、ゆったりした「中之島時間」を楽しんでもらう試みとして2006年にスタートしました。

少し空気がひんやりとする朝の暗いうちから棧橋の席で、太陽が顔を出す瞬間をコーヒーを片手に今か今かと心待ちにし、日の出の瞬間を周囲の皆と拍手と歓声で迎え、何とも言えないあたたかい空間を共有する。その後は、棧橋なり、大阪水上バス株式会社の協力による30分間の「ご来光クルーズ」なりで、1人の時間、友人や家族との時間をそれぞれ満喫したのち、それぞれの目的に向けて出発していきます。その誰もが、活気に満ちあふれていることに、スタッフとして関わらせていただくようになり気づきました。

6年目にして、期間中に約500人を迎え、中には前泊するコアなファンもいる期間限定のイベントは、この時期にしか味わえない身近な非日常の体感という、まちなかの楽しみ方が魅力なのだと思います。皆さんも来年は、早起きして中之島まで来てみませんか？ NPO法人「もうひとつの旅クラブ」

URL <http://tabiclub.org/>



まちなかを行き来する舟（大阪水辺バル）



生駒の山並みから昇るご来光

アルパック(株)地域計画建築研究所

Architects Regional Planners & Associates・Kyoto

<http://www.arpak.co.jp> E-mail info@arpak.co.jp

本 社

京都事務所 〒600-8007 京都市下京区四條通り高倉西入立売西町 82
大阪事務所 〒540-0001 大阪市中央区城見 1-4-70 住友生命 OBP プラザビル 15F
名古屋事務所 〒460-0003 名古屋市中区錦 1-19-24 名古屋第一ビル 6F
東京事務所 〒102-0074 東京都千代田区九段南 3-5-11 スクエア九段ビル 1F
九州事務所 (株)よかネット 〒810-0802 福岡市博多区中洲中島町 3-8 福岡パールビル 8F

TEL(075)221-5132 FAX(075)256-1764
TEL(06)6942-5732 FAX(06)6941-7478
TEL(052)202-1411 FAX(052)220-3760
TEL(03)3288-0240 FAX(03)3288-0221
TEL(092)283-2121 FAX(092)283-2128